

告

昭和元禄四年四月二日。その日の空は霧が抜けるほど
青かった。ひなびた三州の風景を下ろすこと北西三千歩
あまり、この町ではメインストリートに面する綿業会館
という大ホールに、有藤香村が現われ、唄い出したのが、
時に午後二時。ひっそりなれた往來する自動車のみ
騒音にもゆかず、大観衆の前で延々二時間半、
彼は唄いまくった。唄った曲は全て自前て二十曲、会
場内には彼が描いた油絵二十枚、つまり、個展めいコン
サートなぞである。観衆は、時には涙を流し、時には
大喝采をし、時には心臓マヒを起し、時には流血し、大ホ
ールは湯気に沸いた。

このレコードはその時の実況録音録音盤で、今まさにその
日の感興も呼び起すかたのこと、限定盤百枚をここに製
造したのである。有藤元は有藤プロダクションに所属する
ニトログリセリンと稱する得休のしれぬ一座（二流は西尾南枝
地下組織で、無報酬、無責任、無責任をモットーとし、ここに
実費千七百円にて元り出します。

愛知県尾上矢野町後二十八
番
グルーブ・ニトログリセリン